

# 留学報告書

2016 年度奨学生 澁谷陽子

こんにちは、スタンフォード大学経済学部博士課程に留学中の澁谷です。ついに博士課程も四年目に入り、自分の研究だけに集中できる環境が整ってきています。さて今回の報告書では、今年の夏に IMF(国際通貨基金)で行ったサマーインターンシップについて書きたいと思います。IMF では夏に経済学部博士課程の学生を対象として30名ほどインターンを募集しており、各インターンは自分の関心分野に近い IMF 内の部署・プロジェクトに割り振られ、夏の約3か月間を通してプロジェクトチームの人と働きます。プロジェクトの内容は今年末に IMF Working Paper として出版する予定ですので、次回の奨学金報告書で詳しいプロジェクトの内容を書かせていただくとして、今回は IMF で働いてみた感想を書いていきたいと思います。ちなみに私がインターン前に IMF に抱いていたイメージは「高給・多忙・官僚組織」でしたが、良い意味でイメージと異なる点が多々ありました。

まず IMF の待遇について；予想通り、博士号取得後の就職先としては待遇はかなりいい方だと感じました。給料そのものに加え年金や家族の教育費など多くの点で他の企業や大学より良い待遇を提供していると思います。ただ在籍するエコノミストの数が増えすぎてしまい、近年プロモーションの率がかなり下がってきているという噂だったので、社内での出世は難しくなってきたのかもしれない。次に職場環境について；私の抱いていた多忙のイメージとは裏腹に、9時に出社して17時に帰宅する人がほとんどでした（部署と時期によって異なるとは思いますが）。ただ職場の雰囲気がゆったりしているのかというところではなく、皆さん9時から17時の間に猛烈に集中して働き、終わったらさっさと帰宅するという on-off の切り替えがはっきりしている雰囲気でした。また大きな官僚組織ということで社内の意思決定が遅いのだろうなというイメージがあったのですが、私の配属された部署はインターンでさえもプロジェクト内の意思決定を行うことが許されていたり、誰でもいつでも上司の部屋をノックして直接意見を言いに行くことが許されていたり、と良い意味で予想が大きく裏切られました。その分インターンでも若手でもミーティングやプレゼンで毎回発言することが求められますが、皆さんイキイキ働いてとても魅力的な職場でした。

3か月という短い期間でしたが、IMF 全体の雰囲気を知ることができ非常に充実した夏となりました。百聞は一見に如かず、というのを身をもって実感したので、来年以降も興味のある産業があればインターンにどんどん挑戦し博士課程後の進路を後悔のないように選択しようと思

います。最後に、いつもご支援くださる船井奨学金の関係者の皆様、ありがとうございます。  
これからも宜しくお願い致します。